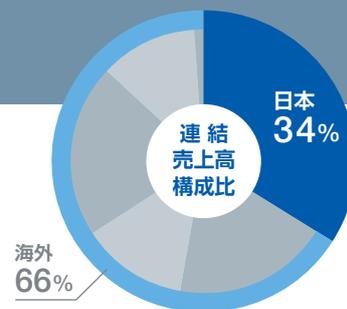


# 日本

中期経営計画「Dash 25」で掲げる「グローバル経営\*の進化」が各地域でどのような施策・成果として現れているかを地域別にご紹介します。

\*グローバルな発想の経営に加え、世界中どこでも地域に根ざしたベストな対応ができる体制を構築すること。



## 2016年度のレビュー

2016年度は前期比で円高が進行したものの、中国を中心に海外市場は総じて好調だったことから、海外市場に強みを持つ多くの日本企業の業績は、為替影響を除いたベースでは堅調に推移しました。このような市場環境のもと当社は、自動車関連市場における堅調な需要を確実に成果につなげるとともに、鉄鋼プラント・上下水道システムの設備更新ニーズを的確に捉えました。各事業ともに総じて底堅く推移しましたが、太陽光発電用パワーコンディショナの国内需要が依然低迷し、国内の売上は伸び悩み結果となりました。一方、当社が成長市場として位置づける食品加工・製造分野などにおいては、少子高齢化による労働力不足を背景に、これまで自動化が難しかったプロセスにおいても、自動化ニーズが高まっており、お客様と一体となった自動化への取り組みを加速させました。

## 今後の見通し

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、日本市場においては都心部の再開発や公共投資の増加が見込まれます。また、グローバルで拡大するエレクトロニクス市場のニーズを捉えた輸出企業の成長に牽引され、日本経済は緩やかな回復が継続するものと思われれます。さらには、政府が進める働き方改革の一環として、生産性向上を実現させる動きの中で、IoTやAIの活用を含めた自動化・ロボット化の投資が一段と加速することが期待されます。

このような中、当社は主力事業であるACサーボ・インバータ・ロボットの新品投入によりお客様の機械や生産設備の差別化を実現する付加価値の高いソリューションを提案していきます。また、食品分野における幅広いソリューションプロバイダーを目指し、お客様との取り組みを強化していきます。

## TOPICS

### 地域に根ざした活動/社会貢献の事例

#### 北九州マラソンの協賛

当社の本社が位置する北九州市では、市制50周年を記念して2014年から北九州マラソンを開催しています。当社は、4年連続でメインスポンサーとして大会を支援するとともに、従業員やその家族によるボランティア活動や会場へのブース設置を行い、地域社会とともに大会を盛り上げました。



給水ボランティア活動の様子



会場の当社ブース

## 中国

執行役員  
中国統括

生山 武史

## TOPICS

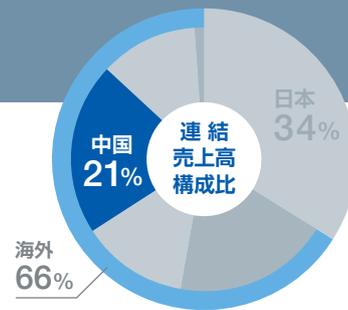
## 地域に根ざした活動/社会貢献の事例

## 教育機関のロボットセンタ見学受け入れ

2014年に上海ロボットセンタを開設して以来、中学校、専門学校、大学など多くの教育機関から見学を受け入れています。写真は上海にある西南位育中学国際部の学生が見学に来られた時の様子です。学生の皆様は、いろいろなロボットの動きやACサーボ、インバータのデモ機を食い入るようになって見えました。そして併設されているアフターサービスセンタでは当社製品の修理・メンテナンスを行っている様子も熱心に見学されました。



見学に来られた西南位育中学国際部の学生の皆様



## 2016年度のレビュー

2016年度の中国GDP平均成長率は前年度をわずかに下回り6.7%となったものの、スマートフォンをはじめとするハイテク市場では生産設備の積極的な投資が行われました。さらに、労働賃金の上昇や少子高齢化などを背景とした、中国政府主導による生産現場の自動化（省人化）ニーズの高まりもあり、安川電機（中国）の業績は過去最高を更新しました。特に、ACサーボ・コントローラ事業の売上は、電子部品の受託加工・組立を行うEMS\*向けや工作機械向けに大きく伸張しました。

\*EMS: Electronics Manufacturing Serviceの略。自社ブランドを持たずに電子機器の製造や設計を行う企業のこと。

## 今後の見通し

2017年度においては、2016年度に引き続きACサーボ・コントローラ事業を中心に好調な需要の継続が見込まれています。安川電機（中国）では、この急増する需要に応えることを目的とし、瀋陽にあるACサーボ工場の生産能力を大幅に増強する計画です。また、ロボット事業においては、EMSや家電組立工程などの非自動車分野でロボット導入が進み、大きな需要拡大が見込まれています。このビジネスチャンスを確認なものとするべく、常州にあるロボット工場の生産能力を増強していくと同時に、ACサーボ・コントローラ事業と連携した新組織を立ち上げシェア拡大を図っていきます。



瀋陽 ACサーボ工場

## 米州



執行役員  
米州統括

Michael Stephen Knapek

## TOPICS

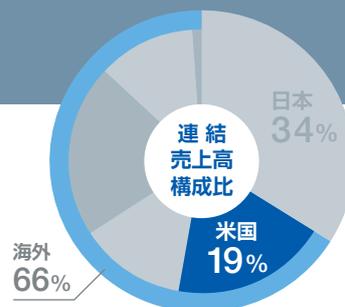
## 地域に根ざした活動/社会貢献の事例

National Robotics Week  
における学生の受け入れ

National Robotics Week（全米ロボット週間）を祝い、米国安川において高校・大学・キャリアセンターから約400名の学生を招き、ロボット事業所の見学会を行いました。学生達に、ロボットのデモンストレーションを間近で見せ、オートメーションに関わる現場の業務について学ぶ機会を提供しました。



米国安川 ロボット事業所での見学会の様子



## 2016年度のレビュー

2016年度は、原油価格の低迷に伴い石油・天然ガス関連市場の投資が停滞したほか、工作機械市場の伸び悩みにより、主力のモーションコントロールにおける競争が激化しました。一方、スポット溶接とハンドリング用途を中心に、自動車関連市場は堅調だったことから、ロボット市場は着実な成長となりました。このような中、ACサーボ事業は半導体・パッケージング市場へ、インバータ事業はHVAC・ポンプ・食品加工市場へ、ロボット事業は自動車・物流市場への拡販に注力しました。また、ロボット事業では、従来は日本で行っていた新たなアプリケーションや新製品の開発を米国で行うことで、現地開発力の強化に取り組みました。

## 今後の見通し

2017年度は、石油・天然ガス市場における投資需要の回復が見込まれ、また新政権の政策により米国経済が好調に推移すれば周辺各国経済へ波及し、米州ビジネスが伸張できることが期待されます。自動車市場は、新車の販売台数の不振がある一方、モデルチェンジに伴う設備投資が部品メーカーを中心に続きます。このような中、上記の主力市場へのアプローチを引き続き強化していくほか、代理店への販売強化により、収益改善に取り組んでいきます。また、自動倉庫など新しいアプリケーション市場での販売強化も進めていきます。さらには、大手自動車メーカーはじめ家電メーカーなど幅広いお客様から高い期待が寄せられている人協働ロボットを早期に市場投入し、この分野の成長を加速させていきます。



人協働ロボット  
MOTOMAN-HC10

# 欧州



執行役員  
欧州統括

Manfred Stern

## TOPICS

### 地域に根ざした活動/社会貢献の事例

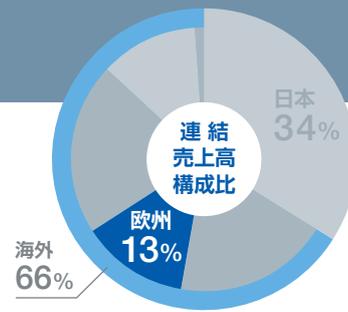
#### チャリティイベント

#### The Baltic Sea Circle Rallyへの参加

2016年6月から7月にかけて、欧州安川の2人のエンジニアが、ヨーロッパ最北端のノールカップへ7,500km以上の距離をドライブし、慈善事業の資金を集めました。集まった資金で、児童福祉と子どもの貧困撲滅に向け活動している団体の支援を行いました。



スタート地点である欧州安川にて



## 2016年度のレビュー

欧州では、地政学リスクの高まりなどにより、不透明な政治情勢が継続しましたが、ユーロ安を背景として、アメリカや中国向けに機械装置の輸出が好調に推移しました。これにより、ドイツをはじめ、フランス、イタリア、北欧など、総じて景気は堅調に推移しました。このような中、当社はPLCによるロボット制御を可能にする新ソフトウェア MotoLogixや欧州子会社であるVIPA社のPLCとのセット販売によるソリューション提供を武器に、自動車市場のTier1ならびに機械メーカーへの売上を拡大させました。また、欧州のロボット工場新設の発表にあたり、当社グループの欧州における成長戦略を打ち出したことで、市場におけるプレゼンスを拡大させました。

## 今後の見通し

BREXITに向けた交渉や主要EU諸国における選挙の行方が、今後の経済に与える影響には注視が必要ですが、ドイツ経済を中心に好調な環境が継続する見通しです。このような中、自動車市場のTier1ならびに一般オートメーション市場における好調な需要を捉え、成長につなげていきます。具体的には、ACサーボ、インバータ、ロボット、そしてVIPA社の新製品であるMICRO PLCにより、食品・包装、エレベータ、金属加工といった注力市場における拡販を進めることに加え、機械メーカーや物流市場といった成長市場へのアプローチを強化します。同時に、現地生産によるリードタイム短縮や、市場の期待が高い人協働ロボットで新領域の開拓にも取り組みます。



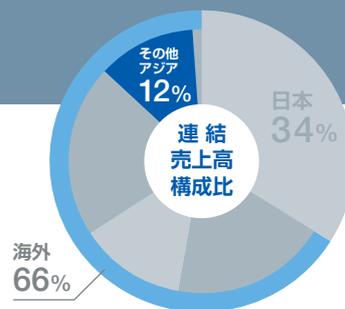
MICRO PLC

# その他アジア



執行役員  
アジア統括

中野 純一



## 2016年度のレビュー

ASEAN主要6ヶ国（インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、シンガポール）および韓国における事業環境は、国ごとに強弱混在となりましたが、現地通貨ベースでの売上は総じて堅調に推移しました。特に韓国においては、半導体・有機EL\*分野にて設備投資が積極的に実施されたため、売上は好調に推移しました。また、ベトナムではインフラ投資および韓国・日本メーカーの工場進出に伴い、急速な成長をみせています。シンガポールにおいては政府主導による港湾クレーン移設に伴うインフラ需要が継続しました。一方、タイ・インドネシア・インドなどでは、生産現場の自動化ニーズは増加傾向にありましたが、主要ビジネスの自動車関連投資が伸び悩む結果となりました。

\*有機EL：発光ダイオード技術を応用し、液晶に比べ薄型軽量で低消費電力。次世代スマホ向けに導入が期待されている。

## 今後の見通し

2017年度は、自動車関連市場においてタイ、インドでは前年度に比べ設備投資が期待されます。一方、インドネシアは自動車関連市場を含め市場の停滞感が続く見込みです。ベトナムでは、インフラ投資の継続と外資メーカーの工場進出が加速しており、ロボットやインバータの普及が進んでいくと考えます。ハイテク産業は韓国を中心に引き続き好調に推移することが見込まれ、食品加工など自動車以外の分野においても、省人化や省エネを目的とした投資活動が活発化してきており、ロボットとACサーボと組み合わせたシステム提案の強化などにより拡販を図っていきます。

## TOPICS

### 地域に根ざした活動/社会貢献の事例

#### タイのロボットセンタにて無料セミナーを開催

タイ国安川電機では非営利団体向けの無料セミナーを開催し、産業界の次世代人材の育成とその振興に貢献しています。2017年3月には、泰日経済技術振興協会より50名を超える方がロボットセンタを訪れ、最先端のロボット技術に関する実演やセミナーを体験されました。



ロボットセンタで行われた非営利団体向けセミナーの様子

